病防第５５号
平成２１年7月１７日

各関係機関長　様

熊本県病害虫防除所長

イチゴのナミハダニの各種薬剤に対する感受性（技術情報第５号）について（送付）

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、防除指導の参考としてご活用下さい。

記

1　目的

近年、イチゴほ場ではナミハダニが多発しており、薬剤感受性の低下が疑われている。そこで、県内のイチゴほ場で採集したナミハダニの薬剤感受性検定を行い、防除対策の基礎資料とする。

2　方法

(1)供試虫採集年月：平成21年5～6月

(2)供試虫採集地点：宇城市（1ほ場)、宇土市（1ほ場)、玉名市（2ほ場)、氷川町（2ほ場）

(3)供試薬剤：これまでの報告で感受性が高かった、マイトコーネフロアブル、コロマイト水和剤と、導入されてまもないダニサラバフロアブルの計3剤を供試した。
※供試濃度は、常用濃度と、その3倍希釈濃度で行った。

(4)検定方法

リーフディスク法で検定を行った。採集した雌成虫をインゲンマメ葉片上に36頭放飼し、48時間産卵させた。雌成虫を取り除き、1日置いた後のインゲンマメ葉片は所定濃度の薬液に約10秒間浸漬し、25℃条件下で管理した。処理7日後に生虫数、死虫数、死卵数を計数し、補正死亡率を算出した。供試卵数は50個以上で、1薬剤1反復とした。

3　結果および考察

(1)　ダニサラバフロアブルは、全ての個体群で3倍濃度でも補正死虫率95%以上であった（表1)。ダニサラバフロアブルに対する感受性の低下は、認められなかった。

(2)　マイトコーネフロアブルは、常用濃度では全ての個体群で補正死虫率100%であったが、3倍濃度では補正死亡率80%以下の個体群が認められた（表1)。マイトコーネフロアブルに対しては、一部で感受性の低下が疑われた。

(3)　コロマイト水和剤は、全ての個体群で常用濃度でも補正死虫率が80%以下であった（表1)。コロマイト水和剤に対しては、感受性が低下していた。

4　防除対策

(1)　今回の結果を参考に、防除計画を立てる。

(2)　マイトコーネフロアブルの効果は高いと考えられるが、一部で感受性の低下が疑われたことから、使用回数を1回にして感受性低下を防ぐ。

(3)　薬剤感受性の低下を防ぐため、系統の異なる薬剤をローテーションで使用する。

(4)　ハダニは葉裏に多く寄生しているため、葉裏まで薬液がかかるよう丁寧に散布する。

(5)　地域やほ場により薬剤感受性は異なるため、試し散布して防除効果を確認する。

表１　イチゴのナミハダニに対する各種薬剤の補正死虫率

	各薬剤による補正死亡[注)] 率(%)					
	ダニサラバフロアブル		マイトコーネフロアブル		コロマイト水和剤	
濃度 （希釈倍率）	常用 (1,000倍)	3倍 (3,000倍)	常用 (1,000倍)	3倍 (3,000倍)	常用 (2,000倍)	3倍 (6,000倍)
宇城市	100.0	100.0	100.0	100.0	73.5	50.8
宇土市	100.0	100.0	100.0	95.6	34.6	12.0
玉名市1	100.0	100.0	100.0	99.0	38.4	25.6
玉名市2	100.0	100.0	100.0	98.5	18.8	32.8
氷川町1	100.0	95.4	100.0	71.9	39.0	11.7
氷川町2	100.0	100.0	100.0	100.0	24.0	18.4

注）死亡＝未ふ化卵＋死虫。苦悶虫は死虫に加えた。

※なお、本文はホームページ「http://www.jppn.ne.jp/kumamoto/」上に掲載しています。

熊本県農業研究センター
生産環境研究所　病害虫研究室
担当：東
TEL ：096-248-6490　FAX：096-248-6493